



とよなかの環境

2023年度 速報版

豊中市では「第3次豊中市環境基本計画」に基づいて環境施策を進めています。
「とよなかの環境・速報版」（豊中市環境報告書）では2023年度（令和5年度）の活動実績を
ふまえて、環境目標に対する取組みの進ちょく状況の速報結果等を公表しています。
市民のみなさんからのご意見、ご提案を受けて、
今後の施策の展開・事業の見直しを行います。

環境目標

目標1

よりよい環境をめざして多様な主体の
パートナーシップで取り組む



目標2



1人あたり温室効果ガス排出量（t-CO₂）
を令和9年度（2027年度）までに、
平成2年度（1990年度）比38.3%
削減し、脱炭素社会をめざす

目標3



発生抑制・再使用と質の高い
リサイクルの推進により、
ごみの焼却処理量を
令和9年度（2027年度）までに
平成28年度（2016年度）比8%削
減し、循環型社会の構築を
めざす

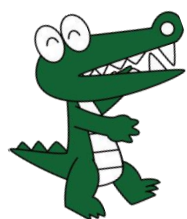
目標4

みどり率27%で
心豊かな豊中らしいまちをめざす



目標5

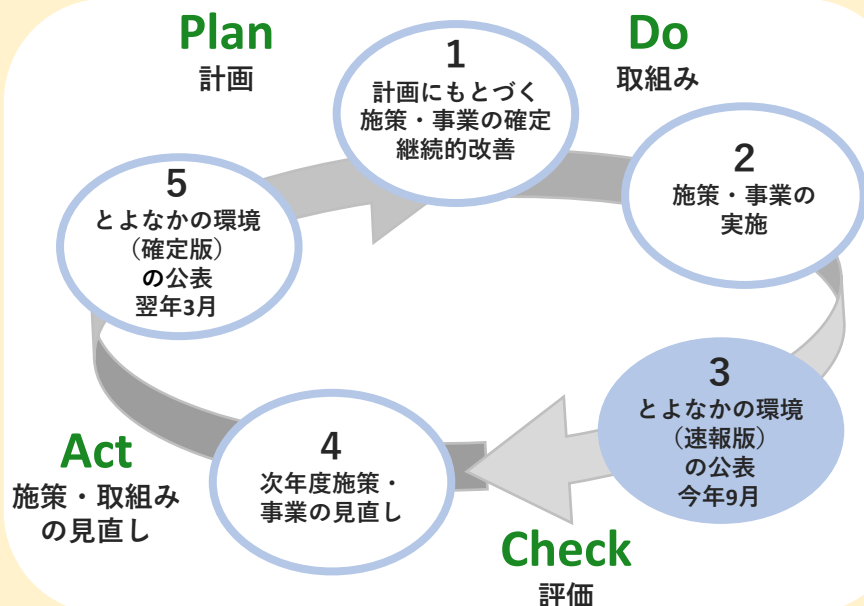
環境基準の達成状況100%で
快適な都市環境をめざす



計画の進め方

計画の推進を着実に図るために、
PDCAサイクルによって毎年度、
活動を評価し、進行管理を行って
います。

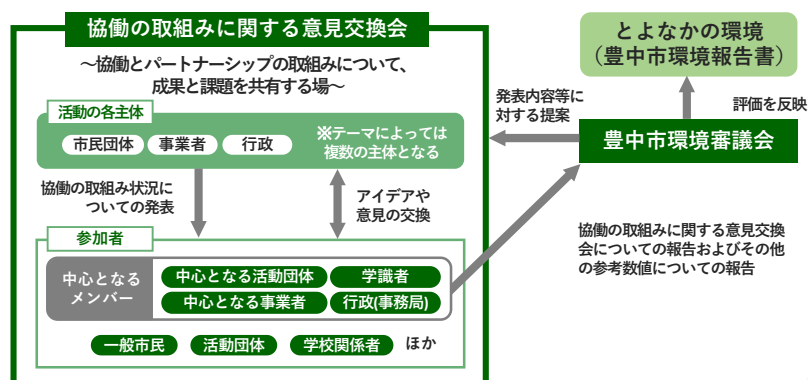
進行管理の中で、環境報告書を
9月（速報版）と3月（確定版）
に公表し、環境審議会と市民のみ
なさんからのご意見やご提案をも
とに施策・事業を見直し、改善を
図りながら、目標の実現をめざし
て取り組んでいきます。



2023年度 環境目標に対する進ちょく状況の見方

目標 1

協働とパートナーシップの取組みに対する評価のプロセス



協働とパートナーシップの進行管理

多様な主体のパートナーシップの取組み成果や課題を共有する「協働の取組みに関する意見交換会」を毎年開催しています。

進ちょく評価

速報版では、「フードドライブを通じた食品ロス・ゼロに向けた取組み」をテーマに実施した「協働の取組みに関する意見交換会」での一部の内容を紹介しています。

目標 2～5

環境目標

各環境分野ごとに環境目標を設定しています。

市の取組み

市の主な取組み内容を紹介しています。

指標の進ちょく状況

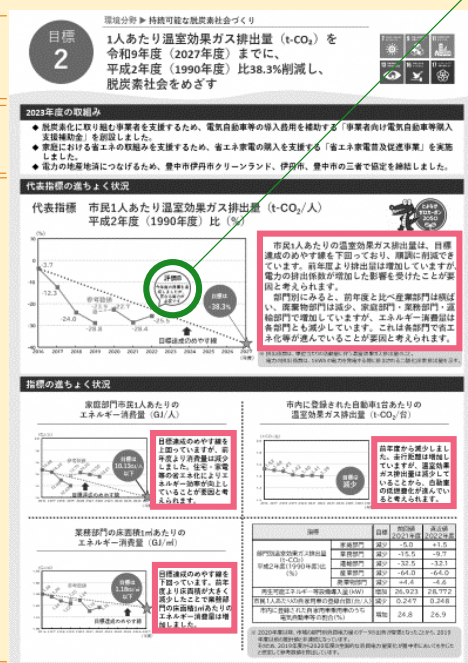
代表指標は目標達成に最も影響を与えるものです。その他の指標は、代表指標を補完または影響を与えるものです。

豊中市の人口と
比べながら、
成果を見てみよう



豊中市の推計人口

2023年4月1日現在 399,029人
2024年4月1日現在 398,087人



評価の判断基準

環境基本計画の進行管理として、目標2・4は、代表指標に目安線をひいています。目安線と数値の関係や前年度との比較でA～Dをつけています。

目標3は、第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画の年度目標値と比較して評価をつけています。

- A 今年度の目標を達成しました
目標達成のめやす以下かつ前回値以下
- B 今年度の目標を達成しましたが、
さらに努力が必要です
目標達成のめやす以下かつ前回値より大きい
- C 改善の傾向にありますが、
更なる努力が必要です
目標達成のめやすより大きく、前回値以下
- D 改善の傾向にありません
目標達成のめやすより大きく、前回値より大きい

備考：目標4は以上を以下、以下を以上に読み替える。大きいを小さいに読み替える。

目標5は、すべての環境基準を達成した場合「A」、達成していない場合「D」をつけています。

要因分析

代表指標および指標が「どうしてこのような結果になったのか」を市で要因分析しています。



ご意見やご提案をお聞かせください

右の二次元バーコードから、「とよなかの環境・速報版」を読んで疑問点や各施策に関する要望、これから取り組むべきことなどにご意見やご提案をお寄せください。

2025年（令和7年）3月発行の年次報告書等で紹介いたします。

豊中市HP



目標
1よりよい環境をめざして
多様な主体のパートナーシップで
取り組む

2023年度の取り組み

- ◆ 市民が地球温暖化について考える機会として、隠岐の島町現地体験プログラムや親子間伐体験、エネルギーの創・蓄・省を学ぶ工作教室等の子ども向け体験型環境学習を実施しました。
- ◆ とよなか市民環境会議が策定する、環境基本計画と両輪の位置づけにある「第3次豊中アジェンダ21改定版」を市ホームページで周知しました。

協働の進ちょく状況

協働とパートナーシップの進行管理の一環として、多様な主体のパートナーシップの取り組み成果や課題を共有する「協働の取り組みに関する意見交換会」を毎年開催しています。

テーマ「フードドライブを通じた食品ロス・ゼロに向けた取り組み」

豊中市におけるフードドライブの活動状況

豊中市 環境部 減量計画課

- ・ イベントで使用できる「のぼり」や食品を回収する「容器」の貸し出し

生活協同組合 コープこうべ大阪北地区本部

- ・ 回収コーナーを常設（市内3店舗）
- ・ 集めた食品は豊中市社会福祉協議会へ提供



社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

- ・ 提供された食品の検品、仕分け
- ・ 子ども食堂や生活困窮者へ配布



特定非営利活動法人 ハニー・ビー

- ・ 「さんあいイベント」内でフードドライブを実施
- ・ 集めた食品は地域の団体へ配布



豊中市立新田小学校

- ・ 食品ロスの学習をきっかけに、校内でフードドライブを児童主体で実施



アイデアや意見交換

課題

- 食品の検品・仕分け・回収・運搬業務の負担軽減を図るための新たな仕組みづくりが必要
- 食品を提供しあえる関係性づくりが必要
- 活動を広げていくためのきっかけづくりが必要
- 開封済みの食品が混ざっていることがあり、フードドライブのルールを周知する必要がある
- 食品を回収してから配布されるまでに多くの人が関わっていることが実感しにくい、取り組みの見える化が必要

今後の展望、活動のヒント

- 食品の検品や仕分けにおける業務量の負担軽減
 - ・ 就労支援との連携や事業者との新たなビジネスモデルの構築
 - ・ デジタル技術の活用
- 食品を提供しあえる関係性づくり
 - ・ 事業者の規模や提供食品の量に応じた適切なコーディネート
 - ・ 食品提供者と受取り希望団体とのマッチングを行う事業の活用
- フードドライブの周知・啓発の手法
 - ・ 地域のイベントでの開催を広げていく
 - ・ モデルとなる活動の情報発信



目標
2

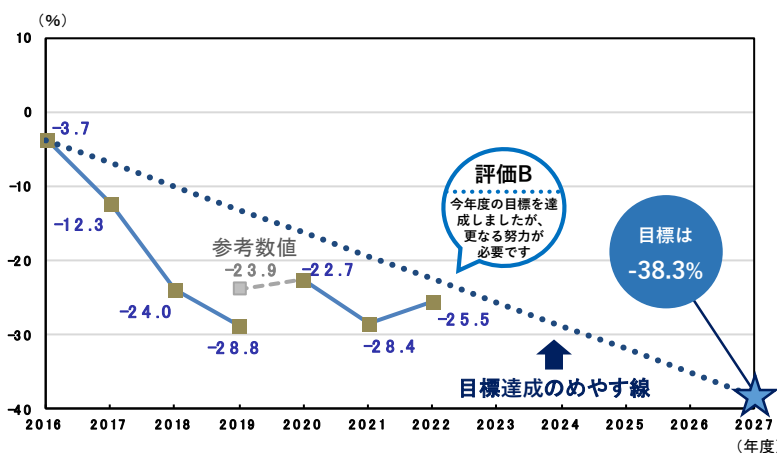
1人あたり温室効果ガス排出量（t-CO₂）を
令和9年度（2027年度）までに、
平成2年度（1990年度）比38.3%削減し、
脱炭素社会をめざす



2023年度の取組み

- ◆ 脱炭素化に取り組む事業者を支援するため、電気自動車等の導入費用を補助する「事業者向け電気自動車等購入支援補助金」を創設しました。
- ◆ 家庭における省エネの取組みを支援するため、省エネ家電の購入を支援する「省エネ家電普及促進事業」を実施しました。
- ◆ 電力の地産地消につなげるため、豊中市伊丹市クリーンランド、伊丹市、豊中市の三者で協定を締結しました。

代表指標の進ちょく状況

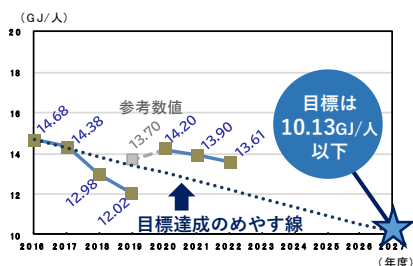
代表指標 市民1人あたり温室効果ガス排出量（t-CO₂/人）
平成2年度（1990年度）比（%）

市民1人あたりの温室効果ガス排出量は、目標達成のめやす線を下回っており、順調に削減できています。前年度より排出量は増加していますが、電力の排出係数が増加した影響を受けたことが要因と考えられます。

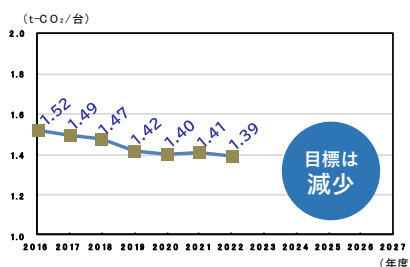
部門別の排出量は、前年度と比べ、産業部門は横ばい、廃棄物部門は減少、家庭部門・業務部門・運輸部門で増加しました。一方で、各部門ともエネルギー消費量は減少しているため、各部門で省エネ化が進んでいると考えられます。

※ 排出係数は、単位当たりの活動量に伴う温室効果ガス排出量のこと。
電力の排出係数は、1kWhの電力を発電する際に排出される二酸化炭素排出量を示す。

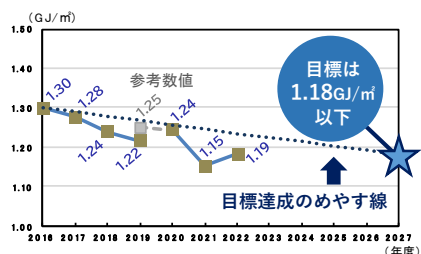
指標の進ちょく状況

家庭部門市民1人あたりの
エネルギー消費量（GJ/人）

目標達成のめやす線を上回っていますが、前年度よりエネルギー消費量は減少しました。住宅・家電等の省エネ化によりエネルギー効率が向上していると考えられます。

市内に登録された自動車1台あたりの
温室効果ガス排出量（t-CO₂/台）

前年度から減少しました。走行距離は増加していますが、温室効果ガス排出量は減少していることから、自動車の低燃費化が進んでいると考えられます。

業務部門の床面積1㎡あたりの
エネルギー消費量（GJ/㎡）

前年度より床面積が大きく減少したことで、業務部門の床面積1㎡あたりのエネルギー消費量は増加しましたが、目標達成のめやす線は下回っています。

指標		目標	前回値 2021年度	直近値 2022年度
部門別温室効果ガス排出量 t-CO ₂ 平成2年度（1990年度）比 （%）	家庭部門	減少	-5.0	+1.5
	業務部門	減少	-15.5	-9.7
	運輸部門	減少	-32.5	-32.1
	産業部門	減少	-64.0	-64.0
	廃棄物部門	減少	+4.4	-4.6
再生可能エネルギー等設備導入量（kW）		増加	26,923	28,772
市民1人あたりの自家用車の登録台数（台/人）		減少	0.247	0.248
市内に登録された自家用車乗用車のうち 電気自動車等の割合（%）		増加	24.8	26.9

※ 2020年度以降、地域の部門別消費電力量のデータの出典が変更となったことから、2019年度以前の推計値と非連続になっています。
そのため、2019年度から2020年度の全国的な消費電力量変化が豊中市においても生じた
と想定して参考数値を算出しています。

目標 3

発生抑制・再使用と質の高いリサイクルの
推進により、ごみの焼却処理量を令和9年度
（2027年度）までに平成28年度（2016年度）
比8%削減し、循環型社会の構築をめざす

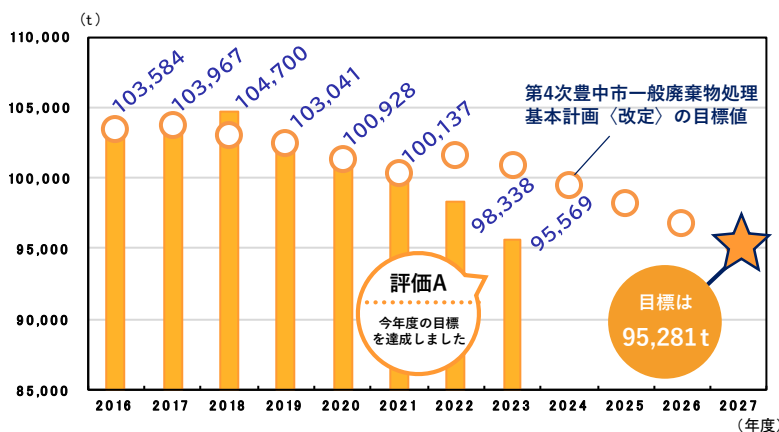


2023年度の取組み

- ◆ 事業者のごみ減量を支援するため、生ごみ処理機の導入費用を補助する「事業系生ごみ処理機設置補助金」を創設しました。
- ◆ フードドライブ事業で新たにヤマト運輸(株)と連携して、食料品の運送を担ってもらうことで、より効果的な運用体制を構築しました。
- ◆ NATS（西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市）の共同事業として、令和4年度（2022年度）に阪急電鉄(株)の協力のもと行った実証実験の結果を受け、阪急岡町駅に給水機が本格設置されました。
- ◆ 環境に配慮した取組みを行う店舗である「豊中エコショップ」の利用促進のため、マチカネポイントを活用した周知・PR活動を実施しました。

代表指標の進ちょく状況

代表指標 焼却処理量（t）

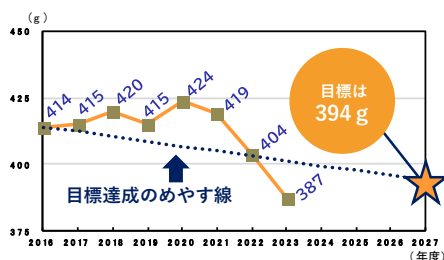


家庭系ごみの減少、事業系ごみの微減により、焼却処理量は前年度から大きく減少しました。

事業活動や人びとの外出の機会が通常に戻るなか、環境意識の浸透、物価高騰による個人消費の抑制とも相まって家庭系ごみは減少、事業系ごみは事業者や行政の取組みにより微減したと考えられます。

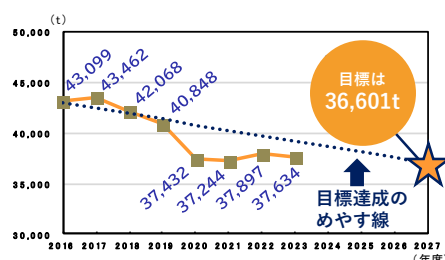
指標の進ちょく状況

家庭系ごみ1人1日あたり排出量（g） （再生資源を除く）



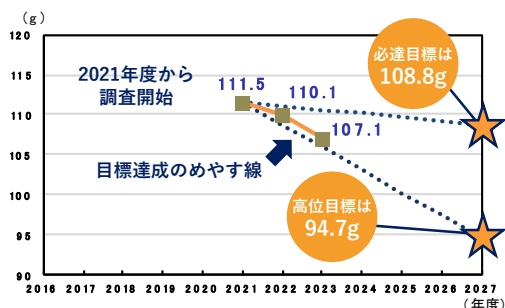
前年度から大きく減少しました。在宅時間の減少、ごみの減量に向けた普及啓発の推進による環境意識の浸透、物価高騰による個人消費抑制の影響が要因と考えられます。

事業系ごみ排出量（t） （再生資源を除く）

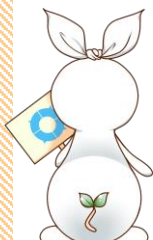


前年度から減少しました。事業者によるごみの発生抑制やリサイクルへの取組みの浸透、行政によるごみの搬入物検査等が要因と考えられます。

食品ロス1人1日あたり量（g）



前年度から減少し、必達目標を達成しました。行政や事業者の取組みの推進、家庭における無駄のない買い物や食材の活用が進んだこと等が要因と考えられます。



みどり率27%で心豊かな豊中らしいまちをめざす

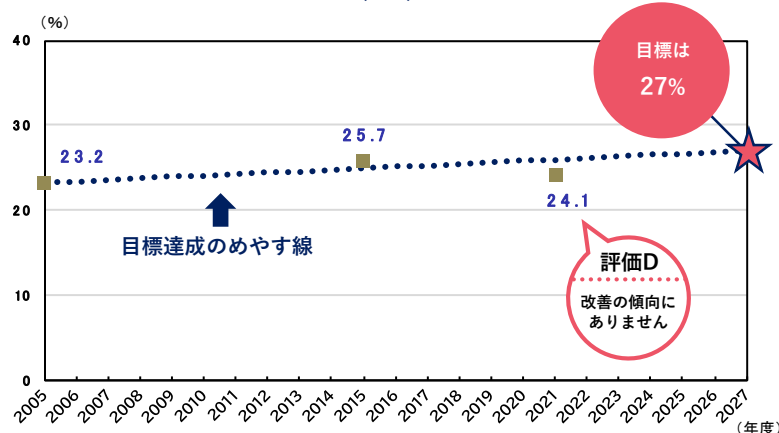


2023年度の取組み

- ◆ 民有地緑化や公園樹木の新規植樹等、市の緑化を進めるため、「3軒から始まるご近所緑化制度」、「生垣・沿道緑化助成制度」、「とよなか公園魅力アップツリー事業」を実施しました。
- ◆ 身近なみどりの保全や緑化の推進を図るため、(株)ジモティーと連携し、お花や樹木のリユースを開始しました。
- ◆ 緑化重点地区に位置付ける市南部地域にて、「みどりのつどい」および「花とみどりの講習会」を開催しました。
- ◆ 自然環境の保全・啓発として、「セミのぬけがら」調査等、市民参加による生き物調査を実施しました。

代表指標の進ちょく状況

代表指標 みどり率 (%)

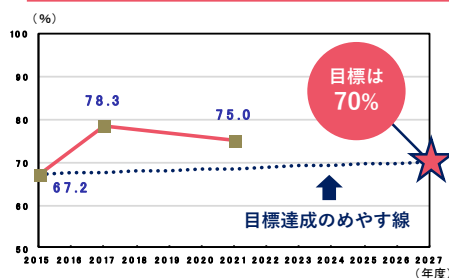


みどり率は、開発行為や自然災害の影響による樹林・樹木の減少、草地・芝地・屋上緑化の増加や樹木の生育状況を総合して、減少傾向となっています。

みどりについては「量」だけでなく、みどりの「質」の向上を目的とする施策の導入強化を図る必要があります。

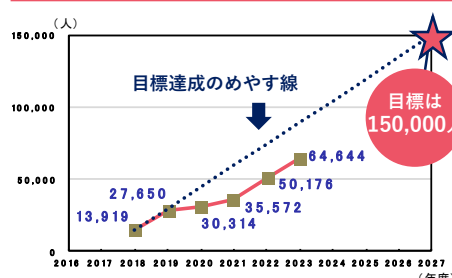
指標の進ちょく状況

みどりに対する満足度 (%)



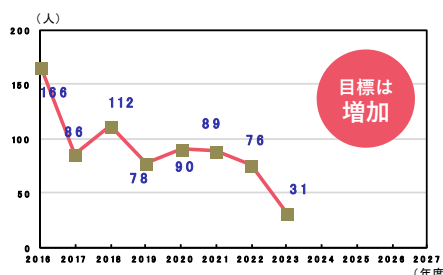
前回調査（2017年度）の78.3%よりやや減少しているものの、目標値（70%）以上で推移しています。

みどりに関するイベント参加者数 (人) (累計)



前年度のイベント参加者数14,604人に対し、今年度は14,468人となり、横ばいとなっています。

市民参加による生物調査の参加者数 (人)



前年度から減少しています。内容に対する参加者の興味や、実施回数が前年度よりも少なかったことが要因と考えられます。

指標	目標	前回値 2021年度	直近値 2022年度
緑被率 (%)	15.7	12.9	—
市民1人あたりの公園・緑地面積 (㎡/人)	7.17	7.12	7.12
生物多様性の認知度 (%) (言葉の意味を知っていた)の回答比率	増加	26.0	—
景観に関する項目が盛り込まれている 地区計画・協定等の数 (件)	増加	49	49

みどりに関する指標の用語説明

第2次豊中市みどりの基本計画では、以下のとおり定義しています。

- ◆ みどり：樹林・樹木、草地、農地、水面、屋上緑化、これらと一体となったオープンスペースなどの緑地のこと。
- ◆ みどり率：樹林・樹木、草地、農地、水面、屋上緑化が市域に占める割合
- ◆ 緑被率：樹林・樹木の面積が市域に占める割合

目標 5

環境分野 ▶ 安全で快適な都市環境づくり

環境基準の達成状況100%で快適な都市環境をめざす

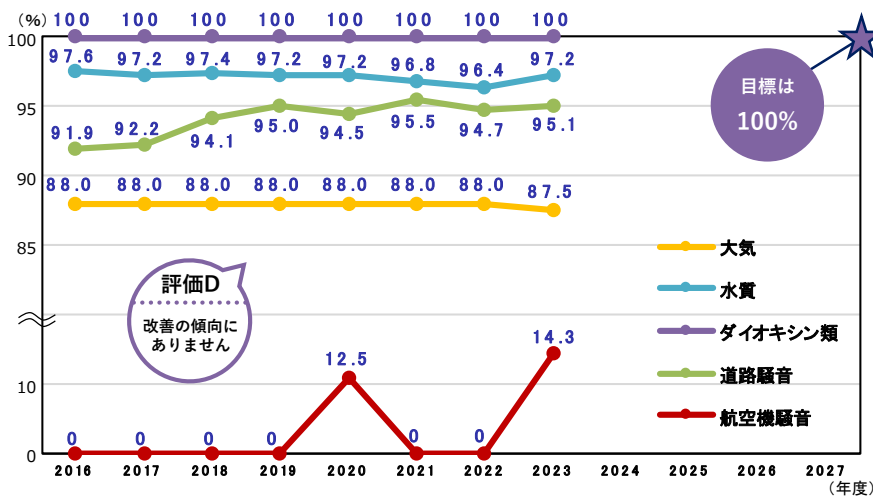


2023年度の取組み

- ◆ 市内の大気の状態や河川の水質等の公害状況を調査して、市ホームページで公表しました。
- ◆ 市内の環境基準達成のため、事業活動等による公害に対して立入検査を実施しました。

代表指標の進ちょく状況

代表指標 環境基準達成状況（％）

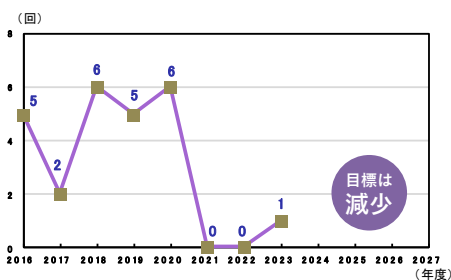


大気、水質、道路騒音では高い環境基準達成率を維持しています。
また、ダイオキシン類は環境基準達成率100%を維持しています。
航空機騒音では、再開発計画に伴い移設された調査地点でのみ基準を達成しましたが、全体の達成率は低い状況となっています。



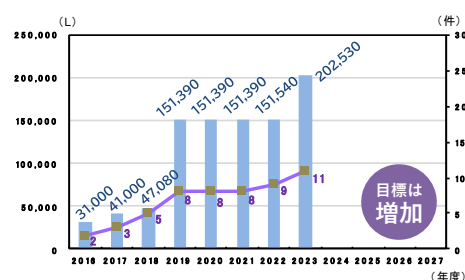
指標の進ちょく状況

大気に関する注意喚起回数（回） （光化学スモッグ予報・注意報、PM2.5（微小粒子状物質））



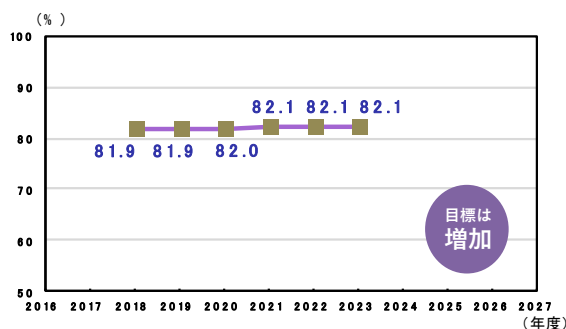
前年度は光化学スモッグ注意報等の注意喚起発令を1回行いましたが、大気に関する注意喚起回数は引き続き少ない状況を持っています。

環境配慮のうち雨水利用に関するもの（累計） （雨水利用の件数（件）・容量（L））



前年度に引き続き増加しています。年ごとに個別事例による利用量の増減はありますが、件数は減少傾向です。

雨水排水整備率（％）



雨水計画面積が大きいので数値上は変化はありませんが、開発時などに雨水管が整備されているため、整備済面積は増加しています。なお、雨水排水整備率は、「（雨水排水整備済面積/全体計画面積）×100」で算出し、大きいほど降雨に対して安全となります。

